マゴコロノマナビ 第109回 真心乃学

「保育」の原点 109

視覚を通じて、心だけでなく頭も発達する

文 葛西得男 text by Tokuo Kassai

目は、心が成長するためにだけ大切なのではありません。実は、赤ちゃんの脳の発達にとっても、目からの刺激は非常に重要なのです。赤ちゃんにとって、視覚は脳の発育のためのスタート台といえるでしょう。ですから、私が回診の時、赤ちゃんが目をぱっちり開けていると、必ず抱き上げて、目をじっと見るのも、一つにはこうした理由もあるのです。赤ちゃんによって、それぞれ焦点距離が違いますから、私の目を離したり近付けたりするのですが、赤ちゃんの目は微妙に動きながらも、私と目を合わせます。つまりこの時から、赤ちゃんの脳の発育はスタートしているのです。先に〝まなかい〟はお母さんの愛を伝える大切な手段だと言いましたが、教育の第一歩でもあるわけです。

私の経験によると、目は赤ちゃんの成長を予見するバロメーターでもあります。私が抱き上げた時、私の目を見てくれる赤ちゃんは、例外なく丈夫に成長しています。生後2カ月、3カ月になると、赤ちゃんが相手の目を見る時間もだんだん長くなります。これも私の経験によれば、相手の目を見つめる時間が長ければ長いほど、健康な赤ちゃんといえるようです。

内藤寿七郎著『育児の原理』

赤ちゃんは、〝いつも心の安定〟を求めている

赤ちゃんの心は、一体どうなっているのでしょうか。誰も赤ちゃんの心の中をのぞくわけにはいきませんし、また赤ちゃんも自分が感じていることを言葉で表現できませんから、推測するよりほかないわけですが、これだけは確実にいえるということがあります。それは、たとえ生まれた直後の赤ちゃんでも、快・不快ということを感じとっていること、そして、常に心の安定を求めているということです。

例えば、おしめが濡れると泣くのは、言うまでもなく不快だからですが、こうした生理的な快・不快だけでなく、心理的な快・不快も赤ちゃんは感じ取っているのです。一例を挙げれば、どんなに暖かくした部屋でも、真っ裸にすると赤ちゃんはワーッと泣き出します。これは寒くて不快なのではなく、裸にされたことで不安を感じたためでしょう。このような不安な状態は、もちろん、心理的には不快なものです。こうした時は、お母さんが抱いてやるか、赤ちゃんの手を静かにジワーッと握り、握ったり離したりを繰り返すと、すぐに赤ちゃんは泣きやみます。これは赤ちゃんが安心して、心が安定するためでしょう。

〝心の安定〟を求める欲求は、自分では何もできない赤ちゃんだけに、むしろ大人より強いといえるかもしれません。私は、長年、赤ちゃんとつきあってきた、さまざまな場面で、赤ちゃんの心の安定を図ってやることがいかに大切か、痛感させられています。ちょっと極論かもしれませんが、赤ちゃんの心の安定さえ心がければ、育児はほとんどうまくいくのです。

『育児の原理』より

Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。
1975年に帰国後、アップリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人 松稲会 理事長に就任。
松稲会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。
アップリカ葛西 副社長時代に国連環境計画（UNEP）のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。